

岩手県知事 県議会議員 選挙結果

東日本大震災の影響で延期されていた岩手県知事選挙と岩手県議会議員選挙の投開票が9月11日に行われました。

3氏が立候補した県議会議員選挙久慈選挙区（久慈市・野田村）は、嵯峨吉朗氏と新人の清水恭一氏が当選。県知事選挙は達増拓也氏が再選を果たしました。

県知事選挙の市内投票率は62.28%。平成19年の知事選に比べて5.78%増加しました。

県知事選の結果

	久慈市	全体
当 達増拓也	12,597	438,975
高橋博之	5,094	163,397
鈴木露通	789	25,240
芦名鉄雄	371	15,567
投票率	62.28%	59.92%

県議選の結果

	久慈市	全体
当 嵯峨吉朗	6,731	7,586
当 清水恭一	6,149	7,066
中平 均	6,008	6,954
投票率	62.26%	63.20%



嵯峨吉朗 議員 清水恭一 議員

市議会議員と 副議長が決定

8月30日と31日に開かれた第1回久慈市議会臨時会において、正・副議長選挙を実施。議長に八重櫻友夫議員、副議長に下館祥二議員が就任しました。



八重櫻友夫 議長 下館祥二 副議長

救急の日にちなみ消防救急フェアを開催

FIRE

ふれあって活動をPR



来場者の視線を釘付けにしたレスキュー訓練

9月9日の「救急の日」にちなみ、久慈消防署は9月10日、同署で消防救急フェアを開催。消防署員は積極的に来場者とふれあい、消防と救急活動の大切さをPRしました。同フェアでは、消防車の搭乗体験や、防火服を着ての記念撮影なども行われ、子どもたちは笑顔で消防士気分を満喫。屋上からロープをつた

って降下するレスキュー訓練の披露では、大人も子どもも、その迫力に驚きながら拍手を送っていました。また、心肺蘇生法をテーマにした「ズッコケ救急PR劇場」も大人気。普段は頼もしい消防署員が見せるドタバタ寸劇に、来場者は大笑いして喜んでいました。馬場琉斗くん（洋野町・宿戸小3年）は「たくさん訓練をして活動しているのがすごい！仕事は大変そうだけど、みんな格好良かったです！」と目を輝かせていました。



見事なズッコケぶりで大人も子どもも大爆笑

秋の狂犬病予防注射

☎生活環境課 ☎54-8003・山形総合支所住民生活課 ☎72-2132

予防注射の日程 ※会場の「C」はセンターの略

① 10月19日(水)久慈地区

時間	会場
9:00～9:20	市役所西側駐車場
9:30～9:40	大川目小学校脇
9:45～10:00	大川目公民館
10:25～10:40	山根公民館
11:00～11:15	岩瀬張公民館
11:25～11:45	小久慈公民館
13:00～13:20	侍浜公民館
13:35～13:55	北野公民館
14:10～14:30	高砂公民館
14:40～15:00	夏井改善C

② 10月20日(木)山形地区

時間	会場
9:15～9:35	戸呂町消防屯所前
9:40～9:45	岡堀公民館前
9:55～10:00	出ル町ふれあいステーション前
10:05～10:15	日野沢消防屯所前
10:20～10:25	新落安橋脇
10:30～10:40	荷軽部地区集落C
10:55～11:10	来内地区集落C

③ 10月21日(金)久慈地区

時間	会場
9:00～9:20	市民体育館
9:30～9:45	上長内公民館
10:00～10:20	宇部デイサービスC
10:35～10:50	久喜公民館
11:00～11:15	小袖漁村C
11:30～11:35	舟渡海水浴場駐車場
11:50～12:00	旧元木沢停留所前

本年度、まだ予防注射を受けていないイヌの飼い主は最寄りの会場で必ず受けてください。実施日に行けない場合は動物病院でも受けられます。

▼注射料金：3100円（注射済票交付手数料を含む）※イヌが未登録の場合は登録料金3千円が別途必要
▼持参する物：通知はがき

※右上の表に続きます▶

AGRICULTURE

大川目地区の経営体育成基盤整備事業が完了

完成に喜び 希望の営農実現目指す



事業の概要

県北沿岸地域で初の、県による大規模な農地整備事業。区画整理（1区画30～50㍍）のほか用水路や農道なども整備されました。

- 事業費 12億9,700万円
- 工期 平成13～23年度
- 関係農家 188戸
- 区画整理 85.1㍍
- 用水路整備 17.1km
- 排水路整備 11.9km
- 農道整備 8.5km
- 農村公園 1カ所



雨にもかかわらず、大勢が出席した除幕式

大川目」と刻まれた記念碑が除幕されると、喜びと祝福の拍手が沸き起こりました。除幕式後は大川目公民館で式典。式辞で、祝賀会実行委員会の砂子友男会長は「県や市、受益農家などの協力に感謝します。整備された農地をフルに活用し、希望いっぱい営農の実現を目指します」と思いを込めました。事業者への感謝状贈呈後は、山内隆文市長などが祝辞。式典後は祝賀会も開き、最後は万歳三唱で締めくくりました。今後、同地区のさらなる営農発展が期待されます。



完工式典で、積年の思いを述べる砂子会長

CHARCOAL

北いわて木炭産業振興協議会が設立

情報共有と団結で 木炭産業振興を



記念講演

記念講演の講師を務めた森林総合研究所東北支所の山本幸一支部長は、「まずは状況を知ることが大切」と岩手木炭の特徴や販売傾向などを説明。その上で「消費者のニーズ調査と、その結果に対応した商品企画などが必要だと思います。また、山林保全などと合わせて木炭産業の重要性を示すのも一つの方法では」と持論を展開しました。



会長に選出された藤森支部長

木炭生産の約4分の1を占める日本一の産地でありながら収益確保や後継者などの課題も抱える県北地域。この状況打開に向けて団結し、木炭産業の振興・発展に取り組む「北いわて木炭産業振興協議会」が9月5日、設立しました。同日、久慈地区合同庁舎で開かれた設立総会には、久慈・二戸地域の木炭生産者など約60人が出席。はじめに規約と役員について協議し、会長には県木炭協会久慈支部の藤森支部長を選出しました。事業計画については、PRイベントの開催やニーズ調査

の今後に向け、藤森会長は「県北の製炭技術は素晴らしい。情報を共有することで木炭の魅力は高められるはず。産業として生き残れるよう、一致団結して頑張っていきたいです」と力を込めていました。の今後に向け、藤森会長は「県北の製炭技術は素晴らしい。情報を共有することで木炭の魅力は高められるはず。産業として生き残れるよう、一致団結して頑張っていきたいです」と力を込めていました。の今後に向け、藤森会長は「県北の製炭技術は素晴らしい。情報を共有することで木炭の魅力は高められるはず。産業として生き残れるよう、一致団結して頑張っていきたいです」と力を込めていました。



資料に目を通す木炭生産者や販売業者など